

ヒリュウ台温州ミカンの早期樹冠拡大法

園芸研究所

1 背景、目的

カンキツ用のわい性台木ヒリュウは、従来のカラタチ台木に比べて省力化と高品質化が同時に図れる台木として注目されています。しかし、ヒリュウ台を用いると苗の植傷みや幼木時からの着花・結実などにより初期の生育が抑制されやすく、生産性向上のためには、幼木時にできるだけ早く樹冠の拡大を図った後に結実を開始させることが必要となります。

そこで、ヒリュウ台温州ミカン「大津四号」について、早期に樹冠を拡大させるための栽培管理法を明らかにしました。

2 成果の内容、特徴

1) ヒリュウ台「大津四号」は、1年生苗を保水性の高い粒状培土により2年間大苗育苗することで、マサ土で育苗した場合や当初から圃場に定植した場合に比べて新梢が長くなって樹高も高くなり、早期に樹冠の拡大が図れます。

2) 苗植え付け後に黒ポリフィルムでマルチ処理することにより、土壌水分を保持し、夏季の葉色が濃くなり、幹周が肥大して樹冠容積が大きくなります。

3) 幼木の春季せん定時の切り返しは、秋枝のみを切除する程度に弱く行うことで、夏枝まで切除する程度に強く行うよりも、新梢数と葉数が増加し、樹冠の拡大が早まります。

3 主要なデータなど

表1 ヒリュウ台「大津四号」の大苗育苗と樹冠拡大

試験区	幹周 (cm)	樹高 (cm)	樹幅 (cm)		樹冠容積 (m ³)	葉数 (枚/樹)	春枝長 (cm)	夏枝長 (cm)
			長径	短径				
粒状培土育苗	8.5a	181a	146a	111a	2.05a	1061a	19.4a	29.3a
マサ土育苗	7.3b	117b	134a	105a	1.15b	1129a	10.6b	21.2b
1年目定植	8.4a	127b	128a	110a	1.25b	1016a	12.3b	21.3b
	*	**	NS	NS	**	NS	**	**

注) 粒状培土育苗区とマサ土育苗区は、ベッド(幅80cm×深さ30cm)で育苗
粒状培土(筑後化成産業社製 赤土造粒品)は赤土と火山灰を混合して
加工したもので、通常の赤土よりも1.5倍ほど保水性が高い
平成11年3月に1年生苗を植え付け、平成12年秋季に調査
Tukeyの多重検定により、異文字間は5%水準で有意差あり
F検定により、*は5%水準、**は1%水準で有意差あり、NSは有意差なし

表2 ヒリュウ台「大津四号」の植え付け後のマルチ処理と樹冠拡大

処理	3月植え付け時			7月					11月				
	幹周 (cm)	樹高 (cm)	葉色 (SPAD値)	幹周 (cm)	幹周 肥大率	樹高 (cm)	樹高 伸長率	樹冠容積 (m ³)	幹周 (cm)	幹周 肥大率	樹高 (cm)	樹高 伸長率	樹冠容積 (m ³)
マルチ	3.1	57	67.6	4.4	1.42	101	1.77	0.29	4.4	1.42	101	1.77	0.29
無処理	3.0	56	56.9	3.9	1.30	101	1.80	0.14	3.9	1.30	101	1.80	0.14
	NS	NS	**	**	**	NS	NS	**	**	**	NS	NS	**

注) マルチ処理は黒ポリフィルムで植え付け時から土壌表面を被覆
t検定により、**は1%水準で有意差あり、NSは有意差なし

表3 ヒリュウ台「大津四号」幼木の切り返しせん定程度と樹冠拡大

切り返し 程度	幹周 (cm)	樹高 (cm)	樹幅 (cm)		樹冠容積 (m ³)	葉数 (枚/樹)	春枝数 (本/樹)	夏枝数 (本/樹)
			長径	短径				
夏枝切除	7.6	125	130	97	1.10	756	37.5	25.3
秋枝切除	9.4	135	161	130	1.98	1293	95.8	52.0
	**	NS	*	*	*	**	**	*

注) 2年生樹の春季せん定時に切り返し処理を行い、秋季に樹の生育を調査
夏枝切除区は樹内すべての夏秋枝を、秋枝切除区は秋枝のみを切除
t検定により、*は5%水準、**は1%水準で有意差あり、NSは有意差なし